

海外を語り合う 亀岡で 400回

少人数講座「グローバルセッション」

亀岡市内で27年前に始まり、海外にゆかりのあるゲストと語り合う少人数講座「グローバルセッション(GS)」が25日、400回の節目を迎えた。欧米やアジアなど多彩な国々の文化や事情に触れる場となっており、主宰者は「いろいろな人を呼び、多文化共生につながっている」と意義を語る。



ネパールを語る400回目のグローバルセッション。現地から来日した人(左端)も参加した。

＝亀岡市余部町・ガレリアかめおか

GSは1999年、市国際センター(宮前町、当時)の英語学習講座として始まった。外国出身者や国内外の研究者と英語で対話していたが、多様な出自のゲストが増え、日本語による異文化体験の場にも変わった。現在はGSに関わっていた児嶋きよみさん(75)＝古田町Ⅱが主宰する団体「オフィス・コン・ジュメント」が、余部町のガレリアかめおかで毎月催している。

ゲストの出身地は米国や中国、バングラデシュ



米国や中国、ネパールゆかりのゲスト 「多文化共生 学ぶ場」

やインドネシアなど幅広く、海外事情に精通した日本人も講演してきた。テーマも多様で、最近ではイスラム教教徒としての生活やブラジル移民の歴史、外国にルーツがある子どもの支援などを語り合った。

400回目の25日のゲストは、18年ほど前にネパールの古都バクタプルで約2年暮らした小学校教諭の湖月美和さん(57)＝京都市右京区。現地の学校教育を支援したという「子どもたちは貧しい中でも目を輝かせて授業を聞いていた」と振り返った。人々は時計や携帯電話なども修理して使っており、「消費社会とは異なり、物を大切にする文化があった」と伝えた。

この日の参加者は約20人で「エベレストはネパール人にとってどんな存在？」などと質問が相次いだ。児嶋さんは「少人数だから聞きやすい。海外の国々を知るのには楽しいことで、続けて良かった」と笑顔を見せた。

(中塩路良平)

グローバルセッションを1999年から続ける児嶋きよみさん

